

こりて、そこばくのわづらひあり、もとめざらんには玄かじ、

〔徒然草上〕名利につかはれて、しづかなるいとまなく、一生を苦むるこそおろかなれ、財おほければ身をまもるにまどし、害を買ひ煩をまねくなかだち也、身の後には金をして北斗をさ、ふとも、人のためにぞわづらはるべき、おろかなる人の目をよろこばしむるたのしみ、又あぢきなし、大なる車、こえたる馬、金玉のかざりも、心あらん人はうたておろかなりとぞ見るべき、金は山にすて、玉は淵になぐべし、利にまどふは、すぐれておろかなる人なり、うもれぬ名を、ながき世にのこさんこそあらまほしかるべけれ、位たかく、やんごとなきをしも、すぐれたる人とやはいふべき、おろかにつたなき人も、家に生れ時にあへば、高き位にのほり、おごりをきはむるもあり、いみじかりし賢人聖人、みづからいやしき位にをり、時にあはずしてやみぬる又おほし、ひとへに高きつかさ位をのぞむも、次におろかなり、智恵と心とこそ、世にすぐれたるはまれも、残さまほしきを、つらく思へば、ほまれを愛するは、人のき、をよろこぶなり、ほむる人、そしる人、共に世にとまらず、傳へきか人、又々すみやかにさるべし、誰をかはぢたれにかしられんことをねがはん、譽は又そしりの本なり、身の後の名残りて更に益なし、是をねがふも次におろかなり、但しゐて智をもとめ、賢をねがふ人のためにいは、智恵ひいで、はいつはりあり、才能は煩惱の増長せるなり、傳てき、學びてしるは、まことの智にあらず、いかなるをか智といふべき、可不可は一條なり、いかなるをか善といふ、まことの人は智もなく、徳もなく、功もなく、名もなし、誰か知りたれかつたへん、これ徳をかくし、愚をまもるにあらず、本より賢愚得失のさかひにおらざればなり、まよひの心をもちて、名利の要をもとむるにかくのごとし、萬事は皆非なり、いふにたらず、ねがふにたらず、

〔閑田次筆四〕又ある學匠の話に、名聞を好むこと甚しき僧は、女犯肉食よりも遙に罪深し、女犯肉